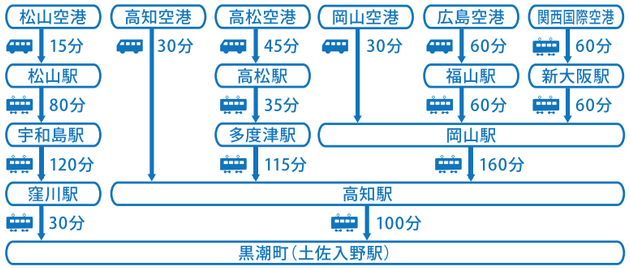
黒潮町 ー海上大河の名を冠る町ー

「黒潮」は別名、日本海流とも呼ばれる世界最大の海流だ。遥か赤道・フィリピン沖から、黒インクを流したように、大きく蛇行しながら北太平洋西岸を北上する様は、まるで大河のよう。流量は最大5000万t/秒、世界最大のアマゾン川(約20t/秒)の実に200倍、まさに一大海上大河である。古くは「黒瀬川」と呼ばれ、漁師はこれに捕らわれることを恐れた。かのジョン万次郎は、同じ幡多郡内の土佐清水市に生まれ、この黒瀬川により漂流し、数奇な冒険譚(たん)を生きることとなった。
黒潮町は、四国土佐の西端に位置する「黒潮」と共に生きる町。海上大河の名を冠する、小さな田舎町である。

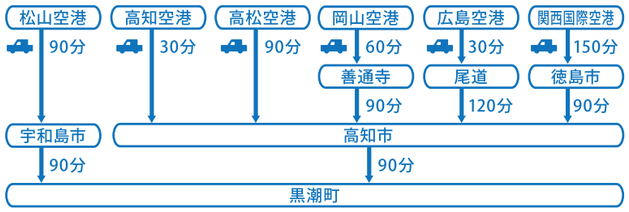
一般社団法人
黒潮町観光ネットワーク

〒789-1911
高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5
Tel　0880-43-0881
Fax　0880-43-1527
Mail info@kuroshio-kanko.net

ACCESS
BUS & TRAIN



ACCESS
CAR



砂浜美術館 黒潮町 高知県

KUROSHIO SUNABI MUSEUM

私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。

4kmの砂浜から始まったこの町の美術館は今、この町そのものを美術館にしています。

高知の西南、黒潮町。
人口11,000人ほどの小さな町に、世界でひとつだけ、そしておそらく、世界で一番大きな美術館があります。

「砂浜美術館」
入野の浜と呼ばれる長さ4kmの砂浜。この砂浜が、そのまま美術館なのです。
ありのままの風景、ありのままの自然が常設展示。
砂浜美術館は、訪れる人が自由に作品を見つける場所。

果てしなく広がる空と黒潮の海に並ぶ作品は、その数に限りはありません。
この町には、都市の華やかさも便利さもありません。
しかし、ここには、豊かな黒潮の海と美しい砂浜があります。
黒潮がもたらす自然の恵と共に生きてきた人びとがいます。
自然と上手につきあうための知恵や文化がたくさん詰まった人びとの暮らし。
そんな町の日々の暮らしを、ありのままの風景を、訪れる人が一つひとつ大切な「作品」として楽しむ砂浜美術館。

4kmの砂浜から始まったこの砂浜美術館は、今、この町そのものを美術館にしています。

この町で出会える「作品」と、その物語をご紹介します。

Tシャツアート展 ～ひらひらの町～

毎年5月のG.W.に現れるひらひらの風景。その始まりは、バブル景気真っ只中の1989年。地方が「ふるさと創生」と称するリゾート開発に沸いたそんな時代に、砂浜美術館はこの『Tシャツアート展』と共に誕生。絵画や写真をTシャツにプリントし、洗濯物を干すように砂浜に並べてみる。真っ青な空と海を背景に、潮風に揺れる1000枚を超えるTシャツ。町の人にとっては見慣れた砂浜が、世界にひとつだけの"美術館"になった瞬間です。
展示するTシャツは全て公募するデザイン。つまりは人々の創造力で創るアート展。展示が終わればTシャツは、潮風をまとったままそれぞれの作者の元へ。毎年出会う新しいTシャツ、そして自然の風景もまた一期一会。人と自然で創るひらひらの風景は、何度見ても飽きることはありません。砂浜美術館の始まりにして、砂浜美術館のコンセプトを最も表現する黒潮町最大のイベントです。

潮風のキルト展 ～らっきょうの花見とともに～

秋・10～11月、入野の浜の松原前に広がるらっきょう畑に小さな花が咲き赤紫色で覆われます。このらっきょうの花絨毯と、緑の松原で彩られた"美術館"で開催するのが『潮風のキルト展』です。
全国から公募した個性豊かなパッチワークキルトが並び、木漏れ日に輝きながら潮風にそよぐ作品たち。一針一針かけた時間の分だけ、想いが込められたキルト作品。室内では味わえないいろんな表情に出会える、砂浜美術館ならではのキルト展です。そして、会場を彩る「らっきょうの花見」も見どころです。

漂流物展とビーチコーミング ～砂浜散策～

古来より黒潮は多くのモノをこの地に運んできました。動植物や文化、技術、そしておそらく私たちの先祖の人々も。今も海岸には、多くのモノが流れ着きます。そのほとんどは"ゴミ"として処理されるものですが、ここは砂浜美術館。ちょっと見方を変えてみましょう。長く海を漂い流れついた漂着物たちのここまでの道のりに想いを馳せれば、そこにはたくさんのストーリーが生まれ、モノはたちまち"作品"に。毎年2月頃、そんな作品を"流れ着く"ストーリーと共に展示する『漂流物展』があります。また、砂浜での"作品"見つけから、それをさらにアート作品に仕上げる『ビーチコーミングとクラフト』を通年実施しています。

お問合せ
予約受付

NPO砂浜美術館
〒789-1911高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5

TEL 0880-43-4915
MAIL nitari@sunabi.com
http://www.sunabi.com/exhibition/

2 KURO SHIO SUNABI MUSEUM

［クジラに逢える町］

めぐり逢い　～ホエールウォッチング～

あなたはクジラに逢ったことがありますか？
「クジラに逢うと人生が変わる」と言う人もいます。本当でしょうか？
5000万年前、あえて陸から母なる海へ回帰し、地球上で最も大きな体をもつに至った鯨類。その巨大さのみならず、神秘的な能力や習性、そして人間程にも高いとされる知性…私たちの興味を惹いてやみません。「人生が変わるかどうか？」一度、あなたもクジラに逢いに来ませんか。

海の貴婦人　～ニタリクジラ～

黒潮町の南面に広がる土佐湾には、髭（ひげ）クジラの一種、ニタリクジラ（ヒゲクジラ亜目ナガスクジラ科ナガスクジラ属）が棲んでいます。「ニタリクジラ」おかしな名前です。「ニタリ」と笑ってみえるから？いいえ、「ナガスクジラに似たクジラ」から「似たりクジラ」になったとか…。また、カツオの群れと泳ぐことが多く、カツオクジラと呼ばれることもあります。
容姿はすらりとスマート、その優美さから「海の貴婦人」の称号も。さらに、砂浜美術館の創設と共に、「館長」に就任しています。

黒潮探訪　～360°水平線・黒潮の真ん中へ～

土佐湾は、クジラの他にも多くの生きものたちを育んでいます。ウミガメ・マイルカ、マンボウ、トビウオ、オオミズナギドリ…。彼らの壮大な棲みかを探検する『ホエールウォッチング』の案内人は、土佐湾を知り尽くした本漁師。見渡す限りの大海原へ漁船で繰り出し、空と海の広さを、地球の大きさを体感しましょう。海にくらす様々な生きものたちと"ただ一度"の時を…。

お問合せ
予約受付

大方ホエールウォッチング
〒789-1911高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5
NPO砂浜美術館 ホエールウォッチング事務局

TEL 0880-43-1058
https://nitarikujira.com

KURO SHIO SUNABI MUSEUM 3

［世界の文化財を守る若山楮］

若山楮のふるさと　～日本の原風景～

海のイメージが強い高知、しかし森林率は実に84%と日本一山林が広がる県なのです（全国平均の森林率は67%）。黒潮町も８割近くが山地になります。海沿いの道を少し外れると、緑濃い山々に囲まれた日本の原風景「里山」が現れます。これも砂浜美術館の貴重な作品の一つ。そんな里山の中に「さが谷三里」と呼ばれる地区があります。
四国八十八ヵ所、37番札所・岩本寺（四万十町）から38番札所・金剛福寺（足摺岬）までの約88㎞。巡礼の道で最長の札所間に「さが谷三里」があります。かつてニホンカワウソが生息し、国内最後の確認地として学術調査が行われたこの地域は、蛇行する伊与木川沿いに里山が残り「さが谷昔ばなし」に編纂（へんさん）される民話の宝庫です。

若山楮の風景　～紙漉きの物語～

この地域では、1800年代後半・明治時代から楮栽培が盛んに行われ、特に拳ノ川地区の「若山」で産する楮は「若山楮」と呼ばれ、日本一の品質を博しました。しかしながら、洋紙の普及など歴史の変遷と共に、楮栽培の風景もいつしか途絶えてしまいます。しかし、地元の小学校では６年生が、自生する楮を刈入れ・蒸しはぎ・紙漉きをして自分の手で卒業証書を作り続けていました。

こうした地域文化の継承を望む町の人びとの熱意はやがて実を結び、（一財）世界紙文化遺産支援財団「紙守」の協力も得て、2010年に楮栽培が本格的に再開されました。天然素材である和紙は、文化財の保護・修繕に欠かすことのできない貴重な存在。その最上質な紙作りの伝統継承を目的とする「紙守」にも認められている「若山楮」。今この地域では、楮の栽培、刈り取り、竈や大桶を用いた蒸しはぎ、清流での洗い、手作業のへぐり…等々これらを担う人びとが集まり、かつての暮らしの風景が復活しています。
この町で生まれた貴重な「若山楮」を素材に塵取り・打開といった江戸時代から続く伝統的な紙づくりの行程にも触れ、紙を漉く。まさに伝統ある産地ならではの『若山楮・紙漉き体験』があります。

お問合せ
予約受付

【若山楮／紙漉き体験】
〒789-1911高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5
（一社）黒潮町観光ネットワーク

TEL　0880-43-0881
FAX　0880-43-1527
MAIL info@kuroshio-kanko.net

黒潮一番地　～カツオ一本釣り日本一の町～

はるか昔から町に様々な恩恵をもたらしてきた海、中でも黒潮にのりやってくるカツオは、この町の食の中心、文化の中心です。黒潮町のカツオ漁の歴史は400年以上。町に残る『鰹一本釣り絵馬』（1865年）には、艙漕（そう）ぎの和船に乗り竿一本で釣り上げる当時のカツオ漁の様子が描かれています。大海原を時速30㎞で回遊するカツオを竿で釣りあげる『土佐の一本釣り漁法』は今も受け継がれている手法。黒潮町佐賀地区は、カツオの水揚げが高知県一であり、カツオ一本釣り漁獲高日本一を誇る船団を有しています。
初ガツオに戻りガツオ、年に二度の旬。さらに、その日に釣ったばかりのカツオは「土佐さが日戻りカツオ」のブランドを持ち、地元では「ビリガツオ」と呼ばれ、格別の味を誇ります。料理する包丁に身が吸い付き、噛み切れないほどモチモチとした普段と全く違う、風味と食感をここで味わうことができます。

カツオの藁焼きタタキ作り体験

～これぞ、まさに本場の味～

「カツオ一本釣り日本一」の町の『藁焼きタタキ作り』に挑戦してみませんか。
カツオ一尾を丸ごと捌（さば）き、藁の強い火力で表面だけを炙ります。切って皿に並べたら、町の特産品である『天日塩』をふり"たたき"ます。昔からの地元漁師の食べ方は3段階。まずはそのまま「塩タタキ」で、次に旬の柑橘類を使った特製の「ポン酢ダレ」。最後にご飯の上にタタキを乗せ、熱つ熱つの湯をかけた「湯かけ」をザブザブとかき込みます。
カツオの捌き方から、盛付け、食べ方まで、漁師のおんちゃん・おばちゃんが、カツオ漁や地元の話を交えながら楽しく教えてくれます。

お問合せ
予約受付

【カツオの藁焼きタタキ作り体験】
〒789-1720 高知県幡多郡黒潮町佐賀374-9
カツオふれあいセンター 黒潮一番館
TEL 0880-55-3680
FAX 0880-55-3755

「さ・し・す・せ・そ」～天然由来の調味料すべてが揃う町～

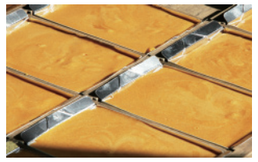
日本の食の基本調味料「さとう・しお・す・しょうゆ・みそ」を表す「さ・し・す・せ・そ」。黒潮町は、青い海を緑の山々が囲む豊かな自然環境の中で、天然由来の「さ・し・す・せ・そ」が揃う珍しい町です。自然の恵みに丁寧な手仕事を加えることで作られる調味料には、食材の味わいを最大限に引き出すだけでなく、身体の機能を正常に保つ大切な役割があります。
地元で作られた天然由来の調味料を、日々の暮らしで味わう。それは、黒潮町が誇る豊かさです。
黒潮の地域風土から生まれる個性を楽しみ、毎日使う調味料からふだんの暮らしの豊かさに目を向ける、「さしすせそ計画」を黒潮町は推進しています。

さ（サトウ）

黒潮町入野砂糖研究会では、オーガニックでサトウキビを育て、江戸時代から続く薪窯焚き製法で『黒砂糖』を作っています。精製していない黒糖は、カリウム、カルシウム、マグネシウムなどのミネラルや、ビタミンB1・B2などの栄養素が豊富で、すっきりとした格別の甘味です。

し（シオ）

雄大な海の恵みと、風と太陽の力、丁寧な手仕事による、全く炊き上げをしない『完全天日塩』。自慢の海から海水を汲み上げ、ミネラルたっぷりの塩に育てる天日塩の工房が町内には何か所もあります。作り手によって味が異なる完全手作りの塩は黒潮町の特産品です。同じ黒潮でとれたカツオのタタキとも相性抜群です。



す（ス）

ブシュカン、ゆず、すだち…町内には、季節ごとに旬の『酢みかん』があります。カツオのタタキはもちろん、お寿司でも活躍する天然の果汁酢です。

せ（ショウユ）

黒潮の漁師の家で作られるキビナゴの『魚醤』。半年以上かけて発酵・熟成させた自家製醤油があり、癖のない上品な味わいです。

そ（ミソ）

有機無農薬大豆と町内産の天日塩を使用したまろやかな『味噌』を作る農家があります。麹に使う米や麦ももちろん自家栽培の完全町内産の手作りで風味もそれぞれ豊かです。

お問合せ
予約受付

【塩づくり体験】
〒789-1905高知県幡多郡黒潮町灘333
有限会社ソルティーブ
TEL 0880-55-3226
https://siomaru.com/

【塩づくり体験】
〒789-1716高知県幡多郡黒潮町熊野浦90-4
企業組合ソルトビー
TEL 0880-55-2040
https://salt-bee.net/

6 KUROSHIO SUNABI MUSEUM

［黒潮体感　海と遊ぶ］

黒潮体感　～海と遊ぶ～

初めて海を見た時、あなたはどんな言葉を発しましたか？それは、言葉になる前の「叫び」だったかもしれません。
心の底から、身体の真ん中から、止めようもなく湧き上がってくる「叫び」。
黒潮の海を感じて叫びたくなるような感動を、もう一度思い出してみませんか。

南北に広がる黒潮町の海岸線は、実に36km。長く続く砂浜から、海食崖と呼ばれる断崖、岩棚、岩礁、磯場など、変化に富んだ"遊び場"があります。また、町名でもある「黒潮」は、世界最大級の暖流で、冬でも水温12℃を下回ることはほとんどありません。

海と遊ぶ方法はたくさんあります。その一つは、サーフィン。遠方からもサーファーが集う国内有数のサーフポイントがあります。町内のサーフショップでも、ボードレンタル、サーフィン教室の受講が可能です。佐賀地区にある穏やかな「塩屋の浜」では、シーカヤックやシュノーケリングを楽しむことができます。また、変化に富んだ海岸は、磯渡し、釣り筏など各種『海釣り』にも最適で、年間通して高い釣果が期待できます。旬の魚を自分で釣り上げて味わう醍醐味をぜひ。

大方地区の浮津海岸、入野の浜では、夏季になると『海水浴場』がオープン。水質は最高ランクの「ＡＡ＝特に良好」。キラキラと輝く豊かな黒潮の海は、砂浜美術館の最高の作品であり、町の誇りです。黒潮町にお越しの際はぜひ、この作品のすばらしさを、"海と遊んで"体感してください。

お問合せ
予約受付

【サーフィン体験】
〒789-1931高知県幡多郡黒潮町浮鞭3570-1
幡多サーフ道場
TEL 0880-43-3309
http://www.hatasurfdojo.com/

【シーカヤック体験】
〒789-1720高知県幡多郡黒潮町佐賀471-3
SEA KAYAK 9640（くろしお）
TEL 090-7105-8447
https://kuroshio-kanko.net/info/sea-kayak/

【釣り筏】
〒789-1708高知県幡多郡黒潮町鈴
鈴漁港
TEL 090-3461-3386
http://www.town.kuroshio.lg.jp/pb/cont/kuronavi-asobu/666

KUROSHIO SUNABI MUSEUM 7

［南国土佐の西南で鍛える］

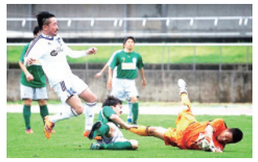
砂浜大運動場とスポーツ施設　～南国土佐の西南で鍛える～

黒潮町の年間平均気温は17℃、年間降雨量は2,800mm前後。そんな南国特有の温暖な気候と、美しい海と緑の山々が織りなす豊かな自然環境に囲まれています。また、スポーツをするうえで欠かせない体を作るための食事、カツオを中心とした新鮮な海の幸や山の幸など豊かな食にあふれています。
この恵まれた環境の"大運動場"で体を動かしてみませんか？

まずお薦めしたいのは、高知県立土佐西南大規模公園・大方地区のスポーツゾーン。天然芝や人工芝のサッカー場、野球場、陸上競技場、テニスコート、体育館、パークゴルフ場などの各種運動施設が徒歩５分圏内にまとまり、快適なスポーツ環境です。
また、入野の浜は「砂浜大運動場」として利用可能です。「はだしマラソン」が開催されるほど美しい、自慢の砂浜コースは、幅100m以上、全長４㎞と充実の広さ。体の負担が少なく、驚くほどの効果が期待できる「砂浜トレーニング」におススメです。

Sunabi（すなび）スポーツでは、スポーツ施設や宿泊の手配はもちろん、合宿や大会の企画・運営など、黒潮町でスポーツを楽しめるようさまざまなサポートを行っています。また、黒潮町スポーツ支援事業（アマチュアスポーツ合宿への助成制度など）もあり、町全体でスポーツツーリズムに力を入れています。

スポーツをきっかけに、ここに集うさまざまな世代・競技の人たちと、彼らを迎える地域の人たち。スポーツで生まれる笑顔や交流も、砂浜美術館の作品なのです。



お問合せ
予約受付

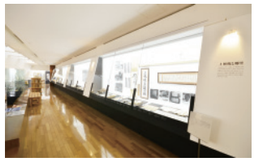
NPO砂浜美術館　すなびスポーツ
〒789-1911高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5
TEL 0880-43-4915
MAIL sunabi.sport@sunabi.com
http://sunabi-sports.com

8 KUROSHIO SUNABI MUSEUM

［上林暁と黒潮の文学］

上林暁と黒潮の文学　～梢に咲いてゐる花よりも 地に散ってゐる花を美しいと思ふ～

紀貫之の『土佐日記』で紹介された高知県は、多くの文学者を生んできました。そんな県を代表する作家の一人が、黒潮町生まれの最後の私小説家"上林暁"です。日本独特の小説概念である私小説の中でも上林暁は、まさに日本の作家らしい精神性を作品の中で表しています。そんな上林文学のファンである又吉直樹氏が、第153回芥川賞受賞後の2015年秋にこの地で講演会を行ったことで、上林作品への注目が再燃しました。
入野松原の中に、上林文学を顕彰する文学館「大方あかつき館」があり、その傍には川端康成氏の染筆による「上林暁生誕の地」の記念碑と歌を刻む文学碑があります。遥か頭上で華々しく咲き誇る花の美しさより、足元に散らばっている花の潔い美しさを決して見逃さない。上林文学の神髄を表すような言葉が刻まれています。
この町で育った人は、この言葉に少なからず精神的な影響を受けているのではないでしょうか。だからこそ生まれた「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」という砂浜美術館の考え方。この感性こそが、最高傑作の無形作品そのものです。



上林暁（本名：徳廣巌城）

1902年、現在の黒潮町下田ノ口に生まれ。県立第三中学校(現・中村高校)の頃より作家を志し、生涯その志を変えることはなかった。貧困と戦争、妻の発病とその死。そして二度にわたる大病と半身不随による18年に及ぶ病床での生活など、度重なる不運に見舞われた。しかし不屈の作家魂と努力、忍耐、家族の献身に支えられ、喘ぎながら岩に刻み込むように私小説をしたためた。
代表作には、妻の闘病生活を描いた「聖ヨハネ病院にて」、妻の介護での不安な心情を描いた「野」、黒潮町浮鞭地区にあるカリト坂を舞台にした「春の坂」などがある。また病床で書いた「白い屋形船」は読売文学賞を、「ブロンズの首」では第１回川端康成賞を受賞。

お問合せ
予約受付
大方あかつき館（上林暁文学館）
〒789-1931高知県幡多郡黒潮町入野6931-3
TEL 0880-43-2110
FAX 0880-43-0222
http://www.library.town.kuroshio.lg.jp/

KUROSHIO SUNABI MUSEUM 9

［黒潮の命を守る防災文化］

黒潮の命を守る防災文化　～人と自然のつきあい方～

太平洋に面した黒潮町は、黒潮がもたらす豊かな自然が広がっています。一方で、高さ34mという日本最大の津波が想定されている町でもあります。黒潮町の歴史の中で度重なる津波被害から町を再建している過去があります。その歴史及び先人たちが今を生きる私たちに残したメッセージから学び、今は、未然に災害から命を守る防災文化が町全体で育まれています。「避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ」を目指し、全町民が一丸となって防災に取り組み、浸水区域内の全町民の避難カルテの作成やそれに基づいた避難道やタワーの建設、定期的に行われる様々な想定の避難訓練など様々な防災の取り組みを日常的に行い、「自分の命を自分で守る」ために、"自ら考え行動する力"を身につけることが重要です。自然が持つ恵みと災いの二面性を理解し、その自然と上手につきあうための文化や知恵を学んだり、あらゆる状況を想定した答えのない問題に対して意見を交わすことで、生き残るための柔軟な発想も鍛え、共に考える防災研修プログラムを黒潮町は行っています。

佐賀地区津波避難タワー見学

国内最大級の津波避難タワーの見学をします。また、日ごろから高い意識を持ち「犠牲者ゼロ」を目指して行われている地区防災組織の取組も紹介します。

防災学習

自然の恵みと災いの二面性を理解すること、また私たちがそうした自然の一員であることを認識し「自分の命は自ら守る」ことの大切さに気づく学習です。

防災缶詰

アレルゲンを取り除いた缶詰は日常から備えだれでも食することができること、非日常で日常を取り戻すことのきっかけとして防災缶詰を日頃から味わいローリングストックしていくことの大切さを伝えています。

お問合せ
予約受付
【防災研修プログラム】
〒789-1911高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5
(一社)黒潮町観光ネットワーク
TEL 0880-43-0881
FAX 0880-43-1527
MAIL info@kuroshio-kanko.net